

親切運動の取組について

学校名 氷見市立西の杜学園
児童生徒数 115名

1 親切運動の取組の紹介

○ 「花鉢プレゼント（一人暮らし高齢者宅訪問）」

毎年、地区の民生委員の方々にご協力いただき、前期課程の5、6年生が、一人で生活をしておられる高齢者の方に自分たちで大切に世話をしたペゴニアの鉢に手紙を添えて届けている。高齢者の方々が笑顔で言うてくださる「ありがとう」の言葉に、児童も自然と優しい笑顔になる。また、自分で一生懸命に育てたペゴニアの鉢を直接プレゼントし、喜んでいただけることに児童も大きな喜びを感じている。

この活動は、普段はあまり交流できない地域の方と触れ合う大切な場、優しさや温かさを感じる貴重な場となっている。



○ 「通学路の清掃」

毎年、11月になると、校区の通学路に落ち葉等がたくさんみられるようになる。そこで、「通学路をきれいにしよう」と後期課程の8年生が中心となって通学路の清掃を行っている。普段はスクールバス通学のため、実際に通学路を利用する児童生徒は少なく、どれほど通学路が汚れているのかを気にとめることがなかった生徒たちも、道路脇で2つのごみ袋がいっぱいになるほどのごみを拾い、そのゴミの多さに驚いていた。友達と協力をして清掃活動に取り組んだことにより、生徒たちは、「地域のために働くことができた」という自己有用感と「これからも校区をきれいにしていきたい」という活動意欲を高めていた。



○ 「花のプランタープレゼント（公民館・児童館訪問）」

児童生徒会が中心となり、昨年からの地域の公共施設に花のプランターを届けている。昨年は公民館で、今年は速川児童館と明和学童に、葉牡丹とパンジー、デイジーを植えたプランターをプレゼントした。2つの施設には、毎年、大勢の児童がお世話になっており、後期課程の生徒もお世話になってきた。そのため、今回の活動を通して、生徒たちは、施設の方に感謝の気持ちと自分たちの成長したことを伝えることができた。はにかみながらも嬉しそうに会話をしている生徒の姿が印象的であった。これからも地域との繋がりや関わりを大切にしていきたい。



2 親切運動に取り組んで

<取組の成果>

良好な人間関係を築くためには、挨拶や心が温かくなるような言葉、地域の方とのコミュニケーションが大切である。

本校では、紹介した取組の他にも、毎週月曜日に挨拶運動を行ったり、各教室でよいところ見付けを行ったりしている。また、児童生徒玄関には「ぼかぼか言葉の虹をかけよう」と全校児童生徒の心が温かくなるぼかぼかの言葉が掲示されている。このような取組を通して、全校児童生徒の思いやりの意識が高まるとともに、地域の方との交流も深まっている。

<課題と今後に向けて>

活動を継続していくためには、児童生徒や教職員にとって、無理のない、そしてやりがいを感じる活動を行っていくことが大切である。今後も「ぼかぼか言葉」が飛び交う学校、「明るい笑顔」が溢れる学校、そして、「温かな交流」でつながる校区を目指して、児童生徒が主体的に取り組める活動を工夫していきたい。

